

内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究(第一編)

檜林病院(院長 檜林博士)

長 島 豊 治

目次

緒論

- 第一編 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度ノ臨牀的觀察
- 第一章 實驗方法
- 第二章 健康人ニ於ケル赤血球沈降速度
- 第三章 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度
 - 第一節 肺結核患者ニ於ケル赤血球沈降速度
 - 第二節 肋膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度
 - 第三節 腹膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度
 - 第四節 淋巴腺結核ニ於ケル赤血球沈降速度
- 第四章 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度ト諸種症狀トノ關係
 - 第一節 赤血球沈降速度ト血壓トノ關係
 - 第二節 赤血球沈降速度トビルケー氏皮膚反應トノ關係
 - 第三節 赤血球沈降速度ト血色素量及赤血球數トノ關係
 - 第四節 赤血球沈降速度ト白血球トノ關係
 - 其ノ一、白血球數トノ關係
 - 其ノ二、白血球混合比例トノ關係
 - 其ノ三、アーチット氏血像トノ關係
 - 第五節 赤血球沈降速度ト「コロイドラベリテート」トノ關係
 - 第六章 妊娠ト赤血球沈降速度
 - 第七章 諸種疾患ニ於ケル赤血球沈降速度
 - 第八章 内科的結核性疾患ニ於ケル疾病ノ經過並ニ豫後ト赤血球沈降速度トノ關係
 - 第九章 本編ノ總括

緒論

歴史ハ繰リ返ス、液體病理學說衰ヘテ細胞病理學說旺盛トナリ更ニ再ビ液體病理ノ研究勃興セリ。赤血球沈降反應ノ研究モ亦其一タリ。抑々赤血球ガ一定ノ條件ニ於テハ他ノ場合ヨリモ速カニ沈降スル事實ハ一七九九年 Hewson 一七九一四年 Hunter 等既ニ之レヲ認メ更ニ十八世紀ノ後葉及十九世紀ノ前半ニ於テ J. Müller, Nasse, Davy 等ノ赤血球沈降ニ關ス

ル研究業績ノ發表セラレシモノアリテ各々本現象ノ説明ヲ試ミタリト雖モ確認セラレシモノナキガ如ク暫ラク忘却セラレタル状態ニアリキ、然ルニ一九一八年 Faltaus ハ偶然ニモ枸橼酸曹達ヲ以テ血液ノ凝固性ヲ防止スル時ニハ妊婦ノ赤血球ハ非妊婦ノ夫レニ比シテ常ニ其沈降速ナルコト、而シテ又斯ル血球現象ハ單ニ妊婦ニ於テノミナラズ他ノ傳染性疾患及惡性腫瘍ノ患者血球ニ於テモ亦認メラル、コトヲ唱導シテ以來血液ノ生物學的研究ノ立場ヨリシテ將又臨牀實驗的方面ヨリシテ極メテ興味アル問題トシテ盛ニ研究論議セラル、ニ到リ本現象ニ關スル業績相次イデ現ハレ海外ニ於テハ Faltraus, Linzenmeier, Geppert, Gänssle 等ハ産婦人科領域ニ Westergren, Schürer, u. Eimer, Katz, Frisch, und Starlinger, Bennighof 等ハ内科領域ニ Nathan u. Herold, Popper und Wagner, Mayr, Hazold 等ハ微毒患者ニ Plaut, Runge, Büscher 等ハ精神病患者ニ György, Nadolny 等ハ小兒科領域ニ於テ各臨牀的方面ヲ研究シ Linzenmeier Höber, Starlinger, Octinsen 等ハ其ノ本態ヲ檢索セリ。本邦ニ於テモ津田、堤、村上、石割、原、渡邊、牧田、清水、竹林、小菅、天谷、其他多數學者ノ臨牀的方面又ハ本態的研究業績アリ、而テ現今該問題ニ對スル研究ノ基調ハ二ツノ方面ニ分ル即チ一ツハ其本態的研究、他ハ其臨牀的研究ニアリトス、而テ前者ニ關シテハ未ダ以テ其決定的解説ヲ得ルニ到ラズ、然レ共後者ニアリテハ各種ノ方面ヨリ之レヲ研究シ今ヤ其實際的意義ヲ認メラレントシツ、アリ。余モ亦主トシテ内科的結核性疾患ニ於ケル本現象ニ就テ聊カ研究セル所アルヲ以テ其ノ概要ヲ報告セントス。

第一編 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度ノ臨牀的觀察

第一章 實驗方法

從來發表セラレタル赤血球沈降速度測定ニ關スル實驗方法ハ種々アリト雖モ臨牀的ニ今日廣ク用ヒラル、方法ハ次ノ三法ナリ。一ハ Linzenmeier 氏法、二ハ Westergren 氏法、三ハ Geppert 氏法ナリ。然レ共是等ノ試驗方法トテモ其ノ根本原理ニ至リテハ一ナリ、即チ一定濃度ノ滅菌的枸橼酸曹達溶液ヲ一定ノ比ニ血液ニ混ジ以テ其血液ノ凝固性ヲ防止シ其一定量ヲバ一定ノ度目ヲ有スル試験管ニ移シ之レヲ試験管臺上ニ靜置セシムル時ハ赤血球ノ逐次沈降シテ上部ニ半透明

ナル血漿柱ヲ生ズ、其兩者ノ境界線ヲ、肉眼的ニ觀察シテ一定時間後ニ於ケル血漿柱ノ高サ若クハ一定ノ高サノ血漿柱ヲ生ズル時間ヲ測定シ、以テ赤血球沈降速度ヲ定ムルニアリ、而テ赤血球沈降速度ノ讀方ニ就テハ諸家皆同一ナラズ、然共皆血漿柱ノ高サヲ測リ之レノミヲ以テ表示セルモノト、之レニ或ル因子ヲ乗ジテ得タル數ヲ以テ表ハセルモノトアレ共余ハ同一方法ニ依リテ測定シ比較スル時ハ何等ノ支障ナキモノト信ジタルヲ以テ次ノ如キ方法ヲ用ヒタリ。

一、試験管 (一・〇) 類ノ内徑ヲ有ス) ハ一旦使用セル後ハ水ニテ洗ヒ次イテ酒精、「エーテル」ヲ通ジテ清淨ニシテ全ク乾燥セシメ次回ノ用ニ供セリ。

二、血液凝固抑制劑 滅菌セル五%枸橼酸曹達液ヲ用ヒタリ此濃度ニ關シテハ諸學者ニヨリ所說區々タリ。Iselhorst ハ種々ナル濃度ノ枸橼酸曹達液ヲ同一割合ニ人類血液ニ加フルニ二・五%乃至五・〇%ハ大差ナケレドモ一・〇%ニテハ赤血球沈降速度稍々遅延スト云フ、竹林氏モ家兎血液ニ就キテ實驗シ一・〇%ハ稍々遅延シ二・〇%ハ稍々速ナリト云ヘリ、枸橼酸曹達液ハ調製數日ヲ經ルニ從ヒ沈澱物ヲ生ズル故新鮮ナルモノヲ使用スルヲ要ス。Deloff ニ依レバ四週ヨリ古キ液ハ誤差アリト云フ。

三、採血 消毒セル五・〇ml注射筒ニ「カンフル」針ヲ用ヒ上述セル五・〇%滅菌枸橼酸曹達液ニテ豫メ洗ヒ、採血部位ハ患者ノ正中靜脈ヲ選ビタリ、此際長ク上膊ヲ鬱血状態ニアラシムル時ハ血液ノ炭酸含有量多クナリ且比較的多數ノ血球ヲ抱有スルガ故ニ試驗結果ニ變動ヲ來ス恐アルヲ以テ余ハ助手ノ手ヲ以テ輕ク上膊部ヲ壓迫シテ短時靜脈ヲ怒張鬱血セシメ手早ク採血セリ、採血ノ時期ハ可及的晝食前ノ空腹時ヲ選ビ同一患者ニ於テ數回行フ時ハ同一時間ニ採血セリ。婦人ニ於テハ月經時ヲ避ケタリ、コレ月經時ニ於テハ沈降速度ニ大ナル影響ナント云フ者ト沈降速度増加スト唱フル者アルヲ以テナリ。

四、血液ト枸橼酸曹達液トノ混合比 余ハ枸橼酸曹達液〇・六mlニ血液二・四ml即一對四ノ比ニ混合セリ、人血球ニ於テハ Iselhorst 及ビ其他ノ報告ニヨレバ枸橼酸曹達液ノ添加量増加スト共ニ沈降速度遅延スルヲ以テ血液ト該液トノ比ヲ一定スルヲ要スト云フ。

五、溫度、後章記スルガ如ク室溫ノ高低ハ赤血球沈降速度ニ影響スルガ故ニ余ハ攝氏二十度乃至二十五度ノ室溫ニ於テ行ヘリ、溫度ノ高低ガ沈降速度ニ影響アルコトハ Fabraus, Ley, Oettingen, 村上, 竹林氏等モ認ムル所ナリ。

六、實施 前記乾燥セル實驗用試験管ニ枸橼酸曹達液〇・六mlヲ入レ攝取セル血液二・四mlヲ夫レニ添加シ輕ク數回振リテ内容ヲヨク混合セル後試験管蓋ニ直立セシメテ放置シ一時間後ノ血漿柱ノ高サヲ測リ糲ニテ表ハシ以テ沈降速度ト爲セリ。觀察時間ハ研究者ニヨリ長短アルモ人血球ニアリテハ健態、病態共ニ三十分乃至六十分ノ間ニ沈降速度最大トナルヲ以テ一時間以内ノ觀測ニテ目的ヲ達スルコトヲ得ト信ズ。

第二章 健康人ニ於ケル赤血球沈降速度

原著 長島 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究

病態ニ於ケル赤血球沈降速度測定ノ豫備的知識トシテ健康者ニ於ケル赤血球沈降速度ヲ測定セリ。由來健態ト病態トノ境界ハ甚ダ不明ナリ。故ニ余ハ數年來自覺的竝ニ他覺的症狀ヲ有セザルモノ及ビ多少ノ他覺的症狀ハ存スルモ數年來何等自覺的症狀ナク職業ニ従事セルモノヲモ健康者トシテ取り扱ヒタリ、年齡ハ十五歳以上六十歳迄ノ者トセリ。W. Löwenstein¹⁾ノ研究ニヨレバ成人男女及少年少女ニ就キ検査シタル結果少女ハ春機發動期ニ到ル迄ハ比較的沈降速度大ニシテその後ニ於テハ緩徐トナル、特ニ男子ハ女子ニ比シテ著明ナリト。Fabrius²⁾, Linzenmeier³⁾等モ健康男子ニ於ケル速度ハ健康女子ヨリモ遅ク約二乃至四分ノ一ナリト云フ。要之女子ハ男子ヨリモ速度大ナルハ一般ニ認めラル、所ナルモ學者ニヨリテ多少ノ度ヲ異ニスルハ其實驗方法又觀察時間ノ長短ニヨリテ起ル異動ナルベシ。余ノ行ヒタル所謂健康男子ノ赤血球沈降速度ハ第一表ノ如シ。

第一表

血漿柱高サ 人員	最短	0.1	0.5	平均	0.279±0.112
	14	0.2	1.1	平均	1.0.55±0.27

第二表

血漿柱高サ 人員	最短	0.2	1.1	平均	1.0.55±0.27
	14	0.2	1.1	平均	1.0.55±0.27

次ニ所謂健康女子ニ於ケル赤血球沈降速度ハ第二表ノ如シ。
 以上ノ表ニヨリ所謂健康女子十四名ノ平均血漿柱ノ高サハ〇・五五±〇・二七ニシテ所謂健康男子二十九名ノ平均血漿柱ノ高サハ〇・二七九±〇・一一ニシテ男子ノ赤血球沈降速度ハ平均女子ノ約二分ノ一ニ相當ス。
 Fabrius²⁾等ト所見ヲ同ジクス。而テ十五歳以上ニ於ケル年齢的差違ハ認めズ。

第三章 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度

第一節 肺結核患者ニ於ケル赤血球沈降速度

肺結核患者ノ赤血球沈降速度ノ健康者ノ其レニ比シ著ク速ナルコトハ Westergren, Frisch u. Starlinger, 村上, 牧田氏等モ認ムル所ナリ。余モ亦肺結核患者ニ於テ沈降速度ガ其病變並ニ活動性ノ程度、男女ノ別、結核菌排泄ノ有無、發熱等

トノ關係ニ關シテ如何ナル狀態ニアルヤヲ檢索セルニ第三表乃至第十三表ニ示スガ如キ結果ヲ得タリ。
 Nathan u. Herold 等ノ檢査ニ依レバ第二期徽毒患者ニ於テハ血球沈降速度ノ促進セルヲ認メタルヲ以テ徽毒ノ有無ヲ考慮シテ檢査セリ。又女子ニ於テハ妊娠セル者ヲ除外セリ。表中熱ハ檢査時ノ體溫ニシテ結核菌ハ檢査日前後二日以内ニ於ケル喀痰ニツキテ檢査セリ。

第三表 男子肺結核ニ於ケルモノ 血漿柱〇・五以下ノ例(菌(-)ハ陰性、熱(一)ハ三七度以下ヲ意味ス)

症例 番號	姓 名	年 齡	病 竈	菌	熱	血漿柱ノ 高サ	備 考
1		二二	右肺尖浸潤症	-	一	〇・五	治癒シ職ヲ取ル
2		二一	右肺上葉	-	三七・一	〇・三	時々血痰ヲ出ス
3		四〇	右肺尖浸	-	-	〇・四	自覺症狀ナク就職
4		二四	右肺上葉浸	-	-	〇・四	時々三十七度トナル
5		三二	右上、中葉、左上葉	-	-	〇・二	榮養佳良ナリ
6		二七	兩肺尖浸	-	-	〇・五	
7		二二	右肺尖浸	-	一	〇・三	
8		三〇	右肺上葉浸	-	三七・二	〇・五	前日マテ職ヲ取り發熱ヲ主訴トシテ來ル
9		二四	左肺門浸	-	三七・四	〇・四	
10		二〇	兩肺尖浸	-	三七・一	〇・二	榮養佳良、自覺症無シ
11		二五	右上葉浸	-	一	〇・四	時々肩緊ヲ訴フ
12		二三	肺門浸	-	三七・二	〇・三	熱ノ他ニ訴ナシ
13		三二	右肺尖浸	-	-	〇・二	
14		二二	肺門浸	-	-	〇・三	
15		三〇	兩肺尖浸	-	-	〇・二	榮養、顔色佳良

第四表 血漿柱〇・六乃至一・〇(男子)

症例	姓 名	年 齡	病 竈	菌	熱	血漿柱ノ 高サ	備 考
1		二四	右肺上葉浸	-	一	〇・八	一ヶ月前喀血
2		二四	右肺尖浸	-	三七・六	〇・七	「ヒプレーゼホルム」
3		一八	右肺尖浸	-	三七・二	一・〇	

原著 長島II内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度竝ニ其本態ノ研究

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
[Redacted names]											
二六	二三	三〇	二八	三四	三一	二八	二〇	三四	二四	三〇	二九
右葉半	右葉	右肺尖浸	右葉	兩上部	兩肺尖浸	兩肺尖浸	左肺尖浸	右葉半	右肺上葉	右肺尖	兩肺Ⅱ
Nr. 3											
三七・二	—	三七・〇	—	—	—	—	三七・〇	—	—	—	—
〇・七	〇・九	〇・九	〇・七	〇・七	〇・六	〇・九	一・〇	〇・六	〇・九	〇・九	〇・八
榮養佳ナルモ血痰	治癒			「ヒブレートセホルム」	「ヒブレートセホルム」	血痰ヲ主訴トシテ來ル		三年前ヨリ患ヒ當時ハ殆ド治癒	殆ド治癒	陳久「ヒブレートセホルム」	

第五表 血漿柱一・二乃至一・五糖(男子)

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
[Redacted names]												
三一	三二	三三	三二	二六	二〇	二五	二五	三〇	三四	一九	二〇	二五
兩上葉	肺門	左下葉	右肺尖浸	右肺上葉	右肺尖浸	右葉	兩上葉	右葉	右葉	兩上葉	左葉	兩肺尖
Nr. 3												
—	—	三七・二	—	三七	三七・四	—	三七	—	—	三七	三七・二	三七
一・二	一・四	一・二	一・二	一・五	一・一	一・三	一・一	一・三	一・五	一・三	一・三	一・二
	陳久	陳久肋膜炎合併						纖維、滲出型	「カタル」型、咯血		陳久肋膜炎ヲ合併	

原著 長島 II 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究

症例	姓名	年齢	病竈	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
4	██████	三二	右肺尖「カタル」	Nr. 2	三七度	二・五	喉頭結核	
3	██████	二二	兩肺上葉	Nr. 5	三七・三	二・一		
2	██████	四二	右肺上葉	?	一	二・五		
1	██████	二〇	上中葉	Nr. 8	三七・	二・五		

第七表 血漿柱二・一乃至二・五種(男子)

症例	姓名	年齢	病竈	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
15	██████	三〇	兩上葉	Nr. 8	三七・四	二・〇	咯血	
14	██████	二五	右肺上葉	—	一	一・七	咯血	
13	██████	一八	右肺上葉	—	三七・三	一・七	喉頭結核合併	
12	██████	一八	兩上葉	—	三七・	二・〇		
11	██████	四〇	兩上葉	Nr. 5	三七・五	二・〇	「カタル」型	
10	██████	二三	兩上葉	Nr. 8	三七・五	二・〇		
9	██████	一八	兩肋膜下浸	Nr. 6	三七・五	一・六		
8	██████	三六	右肺上葉	Nr. 8	三七・二	一・八		
7	██████	二三	兩上葉	—	三七・三	一・八	血痰	
6	██████	三九	肺門部	—	一	一・七	貧血アリ	
5	██████	二二	兩上葉	Nr. 3	三七・二	一・九		
4	██████	二二	左上、下葉	Nr. 5	三七・五	一・七	痔瘻、肋膜炎合併	
3	██████	二二	右肺上葉	Nr. 2	三七・	一・八		
2	██████	二九	兩上葉	—	三七・	一・七		
1	██████	二八	兩上葉半	Nr. 3	一	一・六	肋膜炎合併	

第六表 血漿柱一・六乃至二・〇種(男子)

症例	姓名	年齢	病竈	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
15	██████	三三	兩上葉	Nr. 8	一	一・五	時々熱發	
14	██████	三七	右肺上葉	Nr. 3	三七	一・四		

第八表

血漿柱二・六糎以上(男子)

症例	姓 名	年 齡	病 竈	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備 考
14		二八	病竈	Nr. 10	三八・	二・六	「カタル」型
13		二五	兩上葉	?	三七・八	二・六	
12		五六	兩上葉	Nr. 7	三七・五	二・七	「カタル」型
11		四九	兩上葉	?	一	二・九	ワッセルマン弱陽性
10		三九	右中葉	Nr. 5	三八・	二・六	
9		三三	右中葉	Nr. 8	三七・五	二・七	
8		三五	兩上葉	Nr. 5	三八・	二・九	
7		一九	兩上葉	Nr. 2	三七・五	二・六	
6		二三	肋膜炎	—	三七・八	二・六	
5		二一	右中葉	—	三七・八	二・九	
4		一七	兩上葉	—	三七・八	二・八	
3		二八	左下葉	Nr. 10	三八・	二・六	
2		二九	兩上葉	Nr. 3	三七・九	二・七	兩側陳久肋膜炎
1		三九	病竈	Nr. 4	三八度	二・七	

症例	姓 名	年 齡	病 竈	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備 考
15		四二	兩上葉	Nr. 10	三八・	二・五	一ヶ月後死亡
14		三〇	兩上葉	Nr. 8	三七・五	二・五	
13		四一	右中葉	Nr. 3	三七・九	二・五	
12		二二	右中葉	Nr. 3	三七・四	二・五	「カタル」型
11		四一	右中葉	Nr. 8	三八・	二・二	「カタル」型
10		三〇	兩上葉	Nr. 5	三七・四	二・三	「カタル」型
9		三五	兩上葉	Nr. 8	三七・五	二・五	時々咯血
8		三三	兩上葉	Nr. 7	三七・五	二・三	「カタル」型
7		四〇	右中葉	—	三八・	二・一	
6		二五	右中葉	Nr. 5	三七・五	二・三	
5		二八	兩上葉	?	三七・二	二・五	

原著 長島II内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度竝ニ其本態ノ研究

症例	1	2	3	4	5
姓名	■	■	■	■	■
年齢	二五	二五	二二	二九	四〇
病	肺門部浸	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸
菌	?	-	-	-	-
熱	三七・八	-	三七・二	三七・一	-
血漿柱ノ高サ	一・二	一・三	一・二	一・一	一・一
備	右肋膜炎			「ヒプレーセホルム」 榮養佳良	
考					

第十表 血漿柱一・二乃至一・五 (女子)

症例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
姓名	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
年齢	二五	二一	二〇	三四	二五	二三	二六	二三	四〇	二四	三二	二八	二八	一八	二四
病	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸、 肺門部浸	右肺尖浸	右肺尖浸	肺門部浸	兩上葉浸	右肺尖浸	兩上葉浸	兩肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖「カタル」	右肺尖浸	右肺尖浸	兩上葉浸
菌	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熱	三七・四	-	-	-	-	三七・二	-	-	-	三七・五	三七・一	三七・四	三七・三	三七・一	-
血漿柱ノ高サ	〇・九	〇・四	〇・五	〇・四	〇・五	〇・四	〇・四	一・〇	〇・七	〇・七	一・〇	〇・五	〇・六	〇・六	〇・四
備	榮養佳良		榮養佳良						佳良榮養						右陳久肋膜炎 殆ド治癒
考															

第九表 女子肺結核患者ニ於ケルモノ 血漿柱一・〇以下

症例	15
姓名	■
年齢	四九
病	右上葉
菌	?
熱	三七・三
血漿柱ノ高サ	二・七
備	
考	

原著 長島II内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度竝ニ其本態ノ研究

症例	姓名	年齢	病	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
8 7 6		三九 三五 五〇	右上葉 兩上葉上浸 右肺尖浸	— — —	— 三七・三 —	一・四 一・四 一・三	引氏反應(十)	

第十一表 血漿柱一・六乃至二・〇種(女子)

症例	姓名	年齢	病	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1		二九 一六 三九 二二 四〇 二三 二五 二二 三〇 二六 四〇 四九 二〇	右上葉 左上、下葉 右肺尖浸 右肺尖浸 兩上葉 右肺尖カタル 兩上葉 兩上葉浸 右上葉 右上葉 兩上葉 兩上葉 右上葉	— — — — — ? — — — — — Nr. 6 Nr. 2 Nr. 2 Nr. 3 Nr. 2	三七・二 三七・五 — 三七・二 — 三七・五 — 三七・二 三七・二 三七・二 三七・二 三八・ 三七・一 三七・一 三七・二 三七・二	一・八 一・九 一・八 一・九 一・七 一・七 一・七 一・七 一・六 一・七 一・八 一・〇 一・七	右肋膜下浸潤 「ヒプレーセホルム」	

第十二表 血漿柱二・〇乃至二・五種(女子)

症例	姓名	年齢	病	菌	熱	血漿柱ノ高サ	備	考
5 4 3 2 1		四九 三〇 一九 二七 三四	右上葉 右上葉 右上葉 兩上葉 兩上葉 右下葉	— — — — — Nr. 7	三七・一 — 三八・ 三七・二 三七・二 三七・	二・三 二・四 二・五 二・四 二・二	「脊椎カリエス」 「カタル型」	

原 著

長島Ⅱ内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度竝ニ其本態ノ研究

一一一五

症例	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
姓 名	[Redacted]														
年 齢	二一	一九	二〇	三三	一九	二五	一九	三一	二六	一七	二五	二一	二八	二六	二五
病 竈	兩上葉	兩上葉	兩上葉	右 上葉	右 上葉	兩上葉	左肋膜下浸	兩上葉	兩上葉	右肺門	右肺尖カタル	兩上半	兩上葉	肺門部	兩上葉
菌	Nr. 7?	Nr. 9	Nr. 10	Nr. 5	Nr. 1	Nr. 9	Nr. 5	-	-	-	-	-	-	Nr. 5	Nr. 5
熱	-	三八	三九	三七・五	三七・四	三七	三七	三八	三七	三七	-	-	-	-	三七・一
血漿柱ノ高サ	二・七	三・〇	二・七	三・〇	二・八	三・〇	二・七	二・六	三・〇	二・六	二・七	二・七	二・六	二・七	二・七
備 考	喉頭結核 「カタル」型 「カタル」型 「カタル」型 腎 炎 「カタル」型 「カタル」型 「カタル」型 「カタル」型 腹膜炎ヲ起セリ 貧血強シ														

第十三表 血漿柱二・六種以上(女子)

症例	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
姓 名	[Redacted]									
年 齢	二五	三〇	一九	二四	三二	三三	二五	三七	三五	三二
病 竈	兩上葉	兩上葉	兩上葉	兩上葉浸	右肋膜下浸	右 上葉	兩上葉	兩上葉	右 上葉	右 下葉
菌	Nr. 3	-	?	?	Nr. 7	-	Nr. 5	?	?	?
熱	三七・八	三七・五	三八	三七・五	三七・三	三七	三八	三七・二	三七・六	三七・一
血漿柱ノ高サ	二・五	二・三	二・五	二・五	二・五	二・二	五・五	三・三	五・五	三・三
備 考	脊椎「カリエス」 氣管枝炎 「カタル」型									

上表ニ於テ見ルガ如ク肺結核患者ノ赤血球沈降速度ハ健康者ノ其レニ比シ一般ニ著シク速カニシテ發熱ノ高低ハ沈降速度ノ遲速ト竝行セザレドモ、沈降速度速ナルモノハ一般ニ發熱ヲ伴フ、然共沈降速度遲キモノニ於テモ輕度ノ發熱ヲ伴フモノアリ。結核菌ノ有無ト沈降速度トノ關係ニツキテモ沈降速度大ナルモノ必ズシモ常ニ菌ヲ證明セザレ共沈降速度小ナルモノニ於テハ菌ヲ證明スルコト少シ病竈ノ範圍トノ關係ニツキテハ範圍廣キモノハ沈降速度一般ニ大ナルモ、タトヒ範圍廣クトモ發熱少ナク榮養佳良ニシテ發病以來長年月ヲ經タルモノ及纖維素型ニ於テハ沈降速度比較的小ナリ。反之病竈小ナルモ經過速ナル者、病熱強キモノ、榮養不良ナルモノ、遺傳的關係濃厚ナル者滲出型等ニ於テハ沈降速度大ナリ。而シテ年齡の差違ハ認めザルモ男女ノ關係ニツキテハ同一程度ノ疾病ニ於テハ女子ハ男子ニ比シ沈降速度大ナルガ如シ。同一程度ノ疾病ニ於テ沈降速度女子ガ男子ヨリ比較的大ナルコトハ清水氏モ外科的疾患ニ於テ同ジ所見ヲ發表セリ。コレ女子ハ健康者ニ於テモ男子ニ比シ沈降速度大ナルコトト一致ス。コノ原因ニ就キテハ後章ニ於テ記述ス。要之病竈ノ活動性大ナルモノニ於テハ沈降速度モ亦促進セラル、此ノ事柄ニ關シテモ後述セントス。

第二節 肋膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度

肋膜炎患者ニ於ケル本検査ニ當リテハ可及的他疾患特ニ肺結核ノ合併ナキ者ヲ選ビタリ。尙検査ニ當リ黴毒、妊娠ノ有無ハ勿論考慮ニ置ケリ。

表ニ示スガ如ク肋膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度ト熱、榮養及ビ男女間ノ關係ニ就キテハ肺結核ノ場合ニ同ジ。滲出液ノ有無トノ關係ニツキテハ滲出液ヲ有スルモノハ有セザルモノニ比シ沈降速度大ナリ、即チ血漿柱ノ高サ一・五糎以下ニテ滲出液ヲ有セルモノハ唯一例ノミナリ、而テコノ一例ハ榮養頗ル佳良ナル女中ニシテ發病後五日ニ於ケル初期ノモノナリ。而テ肋膜炎患者ニ於テ發熱比較的輕ク打診聽診等ニヨリ一見肋膜ノ肥厚ナルヤ滲出液存スルナルヤ不明ナル時血球沈降速度大ナルモノニ於テハ(二・〇糎以上)試驗穿刺ヲ行フ時ハ滲出液ヲ證明スルコト多シ。ソノ他肋膜下ノ肺浸潤ヲ起セルモノ、腹膜炎ヲ合併セルモノニ於テハ沈降速度大ナリ、而テ發病ノ初期及陳久ナルモノニ於テハ沈降速度小ナリ。

第十四表 肋膜炎ニ於ケルモノ 血漿柱一・〇糧以下(男子)

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
15	■	三〇	左側肋膜炎	三三・三	—	〇・六	陳久
14	■	二一	兩側肋膜炎	三七・	—	〇・六	陳久
13	■	一六	右肋膜炎	—	—	〇・九	陳久
12	■	三二	兩側肋膜炎	—	—	〇・八	治癒ニ近シ
11	■	二〇	右側肋膜炎	—	—	〇・九	陳久
10	■	一七	右側肋膜炎	—	—	〇・九	陳久
9	■	三〇	右側肋膜炎	—	—	〇・九	陳久
8	■	三〇	左側肋膜炎	三七・	—	〇・三	陳久
7	■	二四	兩側肋膜炎	三七・二	—	〇・五	陳久
6	■	三二	右側肋膜炎	—	—	〇・二	治癒
5	■	二二	兩側肋膜炎	—	—	〇・三	治癒
4	■	二二	兩側肋膜炎	—	—	〇・三	治癒
3	■	二〇	右側肥厚	三七・三	—	〇・二	陳久
2	■	二二	左側肋膜炎	—	—	〇・三	陳久
1	■	二二	兩側肋膜炎	—	—	〇・五	治癒

第十五表 血漿柱一・一乃至二・〇糧(男子肋膜炎)

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
14	■	一九	右側肋膜炎	三七・	—	一・三	右肺尖浸
13	■	二五	兩側肋膜炎	三七・二	—	一・三	右肺尖浸
12	■	四一	右側肋膜炎	三七・	—	一・三	右肺尖浸
11	■	二〇	左側肋膜炎	三七・四	—	一・一	右肺尖浸
10	■	二六	兩側肋膜炎	三七・六	—	一・一	陳久
9	■	一七	兩側肋膜炎	—	—	一・四	肋膜炎
8	■	二八	兩側肋膜炎	—	—	一・六	肋膜炎
7	■	二二	左側肋膜炎	三八・	—	一・七	肋膜炎
6	■	二二	右側肋膜炎	三八・	—	二・〇	初期
5	■	三五	右側肋膜炎	—	—	一・六	初期刺痛
4	■	四一	左側肋膜炎	三七・六	+	二・〇	初期
3	■	一八	兩側肋膜炎	—	—	二・〇	初期
2	■	二二	兩側肋膜炎	—	—	一・六	陳久、兩肺尖浸
1	■	一九	左側肋膜炎	—	+	二・〇	陳久

第十六表 血漿柱二・一以上(男子肋膜炎)

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
8	■	一七	左側肋膜炎	三七・	+	二・五	肋膜炎
7	■	三七	左側肋膜炎	三七・六	+	二・五	肋膜炎
6	■	三四	右側肋膜炎	三七・	—	二・三	肋膜炎
5	■	一七	左側肋膜炎	三七・六	+	二・三	肋膜炎
4	■	二六	右側肋膜炎	—	+	二・四	肋膜炎
3	■	五八	兩側肋膜炎	三七・	—	二・四	肋膜炎
2	■	二一	兩側肋膜炎	三八・	—	二・六	肋膜炎
1	■	五三	兩側肋膜炎	三七・	—	二・七	再發

第十七表 女子肋膜炎ニ於ケルモノ 血漿柱一・〇糧以下

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
8	■	二五	兩側肋膜炎	—	—	〇・三	陳久
7	■	三一	兩側肋膜炎	三七・	—	〇・八	陳久
6	■	四一	兩側肋膜炎	三七・四	—	〇・三	肥厚
5	■	四三	右側肋膜炎	—	—	〇・五	陳久
4	■	二四	右側肋膜炎	三七・	—	〇・九	陳久
3	■	二〇	右側肋膜炎	三七・二	+	〇・九	初期
2	■	二二	右側肋膜炎	三七・	—	〇・六	陳久
1	■	二七	左側肋膜炎	三七・七	—	〇・六	陳久

原著 長島 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究

第十八表 血漿柱一・二〇種(女子肋膜炎)

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
15		二五	右側肋膜炎	三八・	-	一・二	
14		二三	右側肋膜炎	-	-	一・四	
13		一六	兩側肋膜炎	-	-	一・四	
12		二八	兩側肋膜炎	-	-	一・二	
11		二一	兩側肋膜炎	三七・	-	一・三	
10		二一	兩側肋膜炎	三七・五	-	一・二	肥厚 二週後滲出性 ナル
9		四〇	右側肋膜炎	-	-	一・四	
8		三三	右側肋膜炎	-	-	一・五	
7		四〇	兩側肋膜炎	三七・	-	一・二	
6		一八	右側肋膜炎	三七・	-	一・六	
5		三三	右側肋膜炎	-	-	一・六	陳久
4		一七	左側肋膜炎	三七・三	-	一・八	
3		三一	右側肋膜炎	三七・二	+	二・〇	
2		三二	右側肋膜炎	三七・四	-	一・六	
1		一七	兩側肋膜炎	-	-	一・七	右肺炎カタル

第十九表 血漿柱二・一種以上(女子肋膜炎)

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
15		二五	右側肋膜炎	三七・	-	二・四	
14		二二	右側肋膜炎	-	-	二・二	
13		二七	兩側肋膜炎	-	-	二・一	
12		三三	右側肋膜炎	-	-	二・一	
11		一九	左側肋膜炎	三八・	+	二・五	肥厚著シ
10		一九	右側肋膜炎	三七・二	+	二・五	
9		三一	兩側肋膜炎	三七・二	-	二・五	
8		一五	右側肋膜炎	三七・一	+	二・二	
7		二七	右側肋膜炎	三七・六	+	二・四	
6		三三	兩側肋膜炎	三八・	-	二・七	肋膜下浸
5		一九	左側肋膜炎	三七・	-	二・七	肋膜下浸
4		一八	兩側肋膜炎	三七・	-	二・八	腸間膜淋巴腺腫
3		二八	兩側肋膜炎	三七・二	+	二・六	肋膜下浸
2		一八	右側肋膜炎	三八・	+	二・四	腹膜炎
1		二二	兩側肋膜炎	三七・六	+	二・七	

第二節 腹膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度

腹膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度ト他ノ症狀トノ關係ハ全ク肋膜炎及肺結核患者ノ場合ニ於ケル關係ニ同ジ、唯腹膜炎

症例	姓名	年齢	病電	熱	液滲出	沈降速度	備考
15		二七	右側肋膜炎	三七・八	-	一・〇	肺炎浸
14		三〇	兩側肋膜炎	三七・三	-	一・〇	左肋膜下浸
13		一九	兩側肋膜炎	-	-	〇・六	脊椎「カリエス」
12		二二	右側肋膜炎	-	-	〇・三	
11		二二	右側肋膜炎	-	-	〇・九	
10		二二	右側肋膜炎	-	-	〇・六	
9		二二	右側肋膜炎	-	-	〇・六	

患者ニ於ケル沈降速度ハ一般ニ頗ル大ナリ。コレ腹膜炎患者ハ多クハ肋膜炎ノ合併ヲ有スルモノ多キ爲メナランモ或ハ他ニ原因存スルヤモ知レズ。

第二十表 腹膜炎ニ於ケルモノ

姓名	性	年齢	滲出液	熱	沈降速度	備考
子	子	二四	+	三七・二	二・六	兩側肋膜炎合併
子	子	二七	-	三八・	三・〇	兩側肋膜炎合併
子	子	二六	-	三八・	三・一	兩側肋膜炎合併
子	子	一八	-	三七・五	二・八	右側肋膜炎合併
子	子	一七	-	三七・五	三・〇	右側肋膜炎合併
子	子	一六	-	三七・	二・九	右陳久肋膜炎
子	子	一七	-	一	一・〇	治癒ニ近シ
子	子	二〇	-	三八・	三・二	肋膜炎合併
子	子	一八	-	三七・四	二・二	輕度肋膜炎合併
子	子	一八	-	三七・五	二・五	肋膜炎合併

第二十一表 淋巴腺結核ニ於ケルモノ

姓名	年齢	病名	熱	沈降速度	備考
子	三〇	頸腺結核	三七・四	二・二	右肺炎浸
子	二二	頸腺結核	三八・	一・七	肺門部浸
子	四七	頸腺結核	一	二・四	兩肺炎浸
子	一七	腸間膜腺	三八・	二・六	肺門部浸
子	二五	頸腺結核	三七・五	一・七	右肺炎浸
子	三〇	頸腺結核	三七・二	〇・七	榮養佳良、陳久

淋巴腺結核ニ於ケル赤血球沈降速度ニハ特別ナル關係ナキモ淋巴腺ノ腫脹ガ減退スルニ從ヒ沈降速度小トナル、故ニ腫脹減退スルモ沈降速度小トナラザルハ他ノ部ニ病竈ヲ作レルモノト想像スルコトヲ得。

第四節 淋巴腺結核ニ於ケル赤血球沈降速度

第四章 内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度

第一節 赤血球沈降速度ト血壓トノ關係

本検査ニ於テ血壓ハリゾアロツチ氏血壓計ヲ用ヒ、患者ニツキテハ血壓ニ關係ヲ有スル疾病主トシテ腎臟竝ニ血液循環系統ノ疾病ノ有無ヲ精査シタリ。本表ニ見ルガ如ク赤血球沈降速度ト血壓トノ間ニハ大ナル相互的關係ナキモ大體ニ於テ沈降速度小ナルモノハ大ナルモ

第二十二表 赤血球沈降速度ト血壓トノ關係

姓名	性	年齢	病名	沈降速度	血 壓		影響大ナル疾病の有無
					最 高	最 低	
▲	♀	一八	肋膜炎	二・五	一一八	八〇	—
▲	♀	二四	右上、中葉	二・四	一五〇	七五	—
▲	♀	一八	右上葉結核	二・四	一三五	九五	—
▲	♀	二四	右上葉結核	一・九	一〇五	七五	—
▲	♀	二五	兩上葉結核	一・一	二〇	八五	—
▲	♀	一七	右陳久肋膜炎	〇・九	一一三	七五	—
▲	♀	三四	兩上葉結核	〇・七	一三五	一〇〇	—
▲	♀	三四	右肺尖浸	〇・六	一三五	九〇	—
♀	♀	二一	右肺尖浸	〇・四	一二四	六七	—

ノニ比シ血壓比較的高シ、而テ沈降速度大ナルニ係ラズ血壓高キハ豫後良ナリ、表中第一症例ト第六症例トハ疾病ノ程度及赤血球沈降速度殆ド同一ナルモ血壓ハ第一症例ニ於テ低シ、而テ第一症例ノ患者ハ死亡シ第六症例ハ次第ニ良經過ヲ取レリ兩者トモ同年齡ナリ。

第二節 赤血球沈降速度トビルケー氏皮膚反應トノ關係

ビルケー氏反應陽性ナルハ個體ガ何時カ既ニ一回結核ニ傳染シ、又ハ體內ノ何レノ部位ニカ結核症ノ存在スルノ證ニシテ其結核症ハ現時尙病變ノ進行シツ、アル、即チ活動性ノモノナルカ、或ハ既ニ臨牀的意義ニ於テハ停止セルモノナルカ、或ハ既ニ治癒癍痕ヲ留ムルニ過ギザルモノナルカハ問フ所ニアラズ、故ニ本反應ハ成人結核症ノ診斷ニハ殆ド無價値ナリト云ハル、何トナレバ成人ハ其九〇%以上ニ於テ殆ド何程カ結核ニ罹患セルモノナレバナリ。故ニ成人ニアリテハ唯ビルケー氏反應ガ陰性ナル時ニノミ個體ニ結核ノ存セザル確證トシテ診斷上ノ斷案ヲ下スニ定ルト云フ。唯此ノ判斷ニ當リテ注意スベキコトハ顯著ナル結核患者ニシテ亦ビルケー氏反應數回反復スルモ全然陰性ナルコトアリ。コレ患者ノ個體ガ消削ヲ極メ或ハ粟粒結核ニ陥リタル末期ノ患者ニシテ、カ、ル患者ノ豫後ハ甚ダ不良ナリ。蓋シ個體ガ結核菌毒ノ吸收ニ對シテ尙過敏性ヲ有シ反應ヲ呈スル間ハ其ノ個體ハ尙善ク反應炎症ニヨリテ結核病竈ヲ圍繞シ治癒ニ向フ機能力ノ存スルモノト目スベク。反之「ツベルクリン」反應全然消失スル時ハ其個體ハ既ニ治癒ニ對スルノ能力全然缺乏セル爲ナリト思惟スベシ。余ハビルケー氏反應ト赤血球沈降速度トガ如何ナル關係ニアルヤヲ比較觀察セルニ赤血球沈降速度大ナルモノニアリテハビルケー氏反應陽性ナルモノ多ク沈降速度小ナルモノハ該反應強陽性ナル

モノ多シ。此ニ於テ余ハビルケ―氏反應ト同時ニ赤血球沈降速度ヲ測定スル時ハ成人ニ於ケルビルケ―氏反應ヲシテ豫後判定ニ對シ補助的意義ヲ有セシムルコトヲ得ト信ズ、而テ大體ニ於テ結核性疾患ニアリテハビルケ―氏反應強クシテ沈降速度小ナル程豫後良ナリ、但シ疾病輕度ニシテ既ニ佳良ナル經過ヲ取レルモノ及ビ健康者ニ於テハ沈降速度小ニシテビ氏反應モ亦弱陽性ナルモノモアリ。表中■■■■ニアリテハ疾病重症ニシテ體溫日々三十七度乃至四十度ノ間ヲ弛張シ檢査後三十日ニテ死亡セル患者ニシテビ氏反應ハ陰性ヲ示シ沈降速度ハ著ク促進セリ。

ビルケ―氏反應ハ切種式ニヨリ接種四十八時間後ノ結果ヲ檢査シ反應ノ程度ニヨリ陰性(一)ヨリ十十十十十十ニ區別シ接種ト同時ニ赤血球沈降速度ヲ檢セリ。

赤血球沈降速度トビルケ―氏反應トノ關係

姓名	性	年齢	病名	沈降速度	ビルケ―氏反應	備考
■■■■	♂	二五	健	〇・二	+	
■■■■	♂	二〇	兩肺炎浸	〇・二	+	殆ド治癒
■■■■	♂	一八	右肋膜炎	〇・三	+	陳久
■■■■	♂	二二	兩肋膜炎	〇・三	+	陳久
■■■■	♂	二二	兩肺炎浸	〇・三	+	非活動性
■■■■	♂	一八	兩肺炎浸	〇・三	+	
■■■■	♂	二四	健	〇・四	+	
■■■■	♂	二八	右肺炎「カタル」	〇・五	+	
■■■■	♂	二一	兩肋膜炎	〇・六	+	陳久
■■■■	♀	二七	右肺炎浸	〇・六	+	陳久
■■■■	♀	二八	右葉浸	〇・七	+	
■■■■	♀	三八	右上部浸	〇・八	+	上葉上半部ノ
■■■■	♂	二八	兩上部浸	〇・九	+	同意
■■■■	♀	二〇	健	一・〇	±	
■■■■	♂	二六	兩肋膜炎	一・一	+	
■■■■	♂	二二	右上部浸	一・三	+	
■■■■	♂	一八	右上部「カタル」	一・七	+	
■■■■	♂	三三	兩上葉	一・七	+	
■■■■	♂	四一	右葉	二・二	+	
■■■■	♀	三二	肋膜炎	二・五	+	
■■■■	♂	二五	兩上葉	二・五	+	
■■■■	♀	一九	左上、下葉	三・〇	+	
■■■■	♀	二〇	肋膜炎	二・二	+	
■■■■	♂	一八	肋膜炎	二・二	+	
■■■■	♂	二八	兩上葉	二・八	+	喉頭結核
■■■■	♂	二二	兩上部	二・五	+	腸結核

牧田氏モ肺結核症ニ於テビ氏反應強陽性ヲ呈スルモノハ赤血球沈降速度鈍ク反應陰性ヲ呈スルモノハ沈降速度著ク増進セルモノ多シト云ヒ、K. Steiner モ赤血球沈降速度トビ氏反應トノ間ニハ auffallender Parallelismus 有リト云ヘリ。

原著

長島II内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究

第三節 赤血球沈降速度ト赤血球數及血色素量トノ關係

本検査ニ當リ赤血球數ハトーマーツアイス氏血球計算器ヲ用ヒ血色素量ハザリー氏血色素計ヲ用ヒテ檢シタリ。

表ニ於テ明ナルガ如ク赤血球沈降速度ト赤血球數トノ關係ハ大體ニ於テ赤血球數少キモノハ多キモノヨリモ沈降速度速ナリ、然レ共必ズシモ比例セズ、コレ後章述ブルガ如ク血球容量ト血漿量トノ比ガ同一ナラザルモノアルコトト一致ス、即チ赤血球沈降速度ハ赤血球數ノ多少ニヨリテ變動アルノミナラズ血漿ノ性状モ亦大ナル影響ヲ有スルコトヲ知ル血色素量トノ關係モ血球數ニ於ケル關係ニホボ類似ス。村上氏モ余ト同様ノ成績ヲ得タリ。

第二十四表 赤血球沈降速度、血色素ト血球數トノ關係

姓名	性	病名	沈降速度	血色素量	赤血球數
○	♀	心臟瓣膜病	一・七	三〇・〇	四・五四〇〇〇〇
○	♀	右肺尖カタル	二・八	三四・〇	三・四八〇〇〇〇
○	♀	腎結核	一・〇	三五・〇	四・〇〇〇〇〇〇
○	♂	右肺尖カタル	一・〇	四〇・〇	三・四二四〇〇〇
○	♀	右肺尖浸	二・七	五八・〇	四・二五〇〇〇〇
○	♀	肺門部浸	一・七	六三・〇	四・六四〇〇〇〇
○	♀	右肋膜炎浸	一・八	六三・〇	五・六四〇〇〇〇
○	♀	右肋膜炎	二・二	七三・〇	七・六〇〇〇〇〇
○	♂	肋膜炎	二・二	七三・〇	七・六〇〇〇〇〇
○	♀	右肺上葉	一・三	八〇・〇	四・五〇〇〇〇〇
○	♂	右肺上葉	二・三	八三・〇	四・七〇〇〇〇〇
○	♂	兩上半部	〇・八	八五・〇	六・三〇〇〇〇〇
○	♀	兩上半部	二・六	七三・〇	七・一五〇〇〇〇
○	♀	右肺尖浸	一・九	六〇・〇	五・四二〇〇〇〇

テモ血液ニ變化ナク唯貧血ニ一致スル赤血球ノ變化アルノミナリ、若シ中性嗜好白血球過多症アル時ハ混合傳染ニヨル

第二十五表

月日	沈降速度	血色素量	赤血球數	體重	經過
七月十日	一・〇	三五・〇	四・〇〇〇〇〇	四一・〇	右肺尖浸
七月二十一日	〇・八	四九・〇	五・二八〇〇〇〇	四一・〇	右肺尖浸
八月十一日	〇・五	六五・〇	六・五〇〇〇〇	四一・九	右肺尖浸
八月二十四日	〇・三	六八・〇	六・五〇〇〇〇	四二・二	右肺尖浸
十月十九日	〇・一	八五・〇	五・九二〇〇〇〇	四〇・七	右肺尖浸

尙余ハ同一患者ニ於テ其經過中ニ於テ日ヲ隔テ、血球沈降速度ト血色素量、赤血球數トヲ測定セルニ前述ト同様ノ結果ヲ得タリ即チ前表ハ其一例ナリ。

第四節 赤血球沈降速度ト白血球トノ關係

肺結核患者ニ於テ病勢並ニ豫後ト白血球トノ關係ニツキ從來諸學者ノ研究ニヨルニ肺結核ノ輕症ナルモノニアリテハ血液ニ變化ナキヲ常トシ、既ニ肺結核進行シテ空洞ヲ形成セル場合ニ於

モノナリ、而テ重症熱性肺結核ニテハ一般ニ中性嗜好白血球過多症アリテ「エオジン」嗜好白血球、淋巴球共ニ減少ス、赤血球ニハ一般貧血ニ見ルガ如キ變化ヲ伴フ。喀血後ハ貧血及出血後ノ白血球過多症アリテ血色素及赤血球數共ニ減少ス、結核患者ニシテ血液中ニ「エオジン」嗜好白血球ノ増加ハ豫後ノ良好ナル徵ニシテ之レニ反スルモノハ不良ナル徵ナリ。淋巴腺ノ結核ニハ一般ニ白血球過多症アリ、縦隔竇及後腹膜腺等ノ結核ノ場合ニハ淋巴球著減シ結核性腦膜炎ニハ白血球減少シ粟粒結核ニハ多型核白血球普通ナルカ或ハ減少ス時トシテ高度ノ白血球減少症ヲ起スコトアリト云フ。先ニ赤血球沈降速度ノ遲速ハ大體ニ於テ疾病ノ活動性ト一致スルヲ知レルヲ以テ余ハ赤血球沈降速度ト白血球トノ間ノ關係ニツキ検査ヲ行ヘリ。即沈降速度測定ト同時ニ同一血液ニツキ白血球數竝ニ白血球ノ混合比例ヲ測定セリ、白血球數ハトーマツアイス氏血球計算器ヲ使用シ白血球ノ染色ハ塗抹標本ニ於テギームザ氏染色法ニ依レリ。

其ノ一、白血球數トノ關係、赤血球沈降速度大ナルモノニ於テハ白血球數モ亦増加シ沈降速度一・六糎以上ノモノニアリテハ白血球數ハイヅレモ一萬以上ヲ算セリ。今赤血球沈降速度測定ニ於テ赤血球沈降セル後ノ血漿柱ヲ見ルニ、イツレモ多少溷濁セルヲ見ル、コレ血漿中ニ白血球及血小板ノ浮游スルガ爲ニシテ此溷濁ノ程度ハ沈降速度大ナルモノノ程強シ、即血球計算ニ於ケル成績ト一致ス。

其ノ二、白血球混合比例トノ關係
中性嗜好白血球トノ關係、沈降速度大ナルモノニアリテハ中性嗜好白血球ハ比較的増加シ沈降速度一・〇糎以上ニ於テハ中性嗜好白血球ハイヅレモ七〇%以上ヲ算ス、然共沈降速度大ナルモノニアリテモ發熱少ナク榮養佳良ニシテ豫後良好ナルモノニアリテハ必ずシモ本白血球ノ増加ヲ見ザルナリ。

淋巴球トノ關係、沈降速度小ナルモノ及中等度ニ促進セルモノニテモ局所竝ニ一般狀態ヨリ觀察シテ豫後ノ佳良ナルモノニアリテハ淋巴球通常ナルカ又ハ増加セルヲ見ル、反之沈降速度著シク増進シ局所竝ニ一般狀態ヨリ觀察シテ豫後不良ナルモノニアリテハ淋巴球減少ヲ認ム。

「エオジン」嗜好白血球トノ關係、沈降速度大ナルモノニアリテハ一般ニ「エオジン」嗜好白血球減少ヲ認ム、然共局所竝

ニ一般状態ヨリ觀察シテ豫後良ナルモノ竝ニ疾病陳久ナルモノニアリテハ沈降速度比較的大ナルモノニアリテモ「エオ
 ジン」嗜好白血球常態ニ存スルモノアリ。

肥胖細胞及大單核細胞トノ關係、コノ兩細胞ト沈降速度トノ間ニハ特別ナル關係ヲ認ムルコト能ハズ以上表示スレバ左
 ノ如シ。

第二十六表 赤血球沈降速度ト白血球トノ關係

姓名	病名	沈降速度	白血球數	白血球混合比例%				
				中性多型	淋巴球	「エ」嗜好	大單核移行	肥胖
右上半部浸	右上半部浸	〇・九	一一五〇〇	七七・七	六・一	一一・一	四・九	〇
右上半部浸	右上半部浸	〇・五	九七〇〇	五五・七	三四・四	三・六	六・一	〇
右葉	右葉	一・五	九九〇〇	五八・四	三一・三	四・五	五・七	〇
右葉	右葉	二・〇	一二〇〇〇	七一・〇	二二・二	三・四	三・五	〇
右肺尖浸	右肺尖浸	〇・二	九二〇〇	五九・〇	三四・二	三・一	三・五	〇
右肺尖浸	右肺尖浸	〇・〇	八九〇〇	三五・八	五〇・七	〇	一二・八	〇
右肺尖浸	右肺尖浸	〇・六	六一〇〇	四九・三	四一・八	一・三	七・五	〇
兩上葉	兩上葉	二・四	一〇五〇〇	七五・〇	一五・七	〇・六	八・五	〇
兩上葉	兩上葉	二・七	一一〇〇〇	七八・四	一三・四	〇・九	七・一	〇
肋膜炎	肋膜炎	二・六	一四一〇〇	七六・〇	二一・七	〇・四	一・七	〇
肋膜下浸	肋膜下浸	二・二	一二〇〇〇	七〇・六	一〇・五	一四・二	四・五	〇
兩上葉	兩上葉	一・二	一七五〇〇	七三・三	一一・九	七・七	六・九	〇
肋膜下浸	肋膜下浸	一・六	一〇〇〇〇	五〇・九	三〇・三	七・二	一〇・九	〇
右肺尖浸	右肺尖浸	〇・九	七五〇〇	六九・五	二三・三	一・六	五・九	〇
兩上葉	兩上葉	二・二	一一〇〇〇	六八・七	二〇・七	〇・六	九・六	〇

其ノ三、アーネツト氏血像ト赤血球沈降速度トノ關係

ア氏ハ人體ノ中性嗜好白血球ガ生理的竝ニ病的要約ニヨリテ移動スルコトヲ立論セシ以來多數ノ研究者ニヨリテ興味ア

ル問題トシテ評論セラレタリ、蓋シ中性嗜好白血球ノ核ハ分葉狀ヲナスモ分核少キモノハ多キモノニ比シ尙分化スルヲ意味ス、即チ常態ニアリテハ一核ノモノヨリ二、三、四、五及ソレ以上ノ核ヲ有スルモノト一定ノ比例ノ下ニ存シ其單核ナルモノハ多核型ニ移動シ得ル性ヲ有ス、而テ單核ナルモノハ幼弱ニシテ免疫體構成ノ機能弱ク漸次發育スルニ從ヒ次第ニ多核型トナリ同時ニ機能モ旺盛トナルモ四核以上トナル時ハ再ビ機能衰退シ寧ロ退行型トナリ而テ疾病ノ輕重及種類ニ應ジテ其ノ混合比例變化シ單核型ノ増加スル場合、コレヲ左方轉位ト稱シ四、五核型ノ増加スル場合コレヲ右方轉位ト稱シタリ(結核ニ於テ左方轉位ヲ示ス時ハ病勢ノ進行ヲ示シ豫後不良ノ徵トナセリ)氏ノ說ニハ多數ノ反對アルモ現今其主張ハ一般ニ肯定セラル、余ハ肺結核患者ニ於テア氏血像ト赤血球沈降速度トノ關係ヲ檢査シ兩者ノ豫後判定上ノ價値ヲ比較セントセリ。ア氏ハ Ehrlich, Limbeck Spilling 氏等ニ從ヒ中性嗜好骨髓細胞W異型骨髓細胞M桿狀核白血球Vノ如キ單核型ヲ第一型トナシ其ノ核ノ分裂形態ノ蹄形ニS球形ニKナル符號ヲ付シ核數ニヨリ二個アルモノヲ第二型以下第三、四、五型ヲ區別セシコト次ノ如シ。

I
W, M, V, 2K, 2S, K, S, 3K, 3S, 2SK, 2K, S, 4K, 4S, 3KS, 3SK, 2K2S, 5K, 5S, 4SK, 2K3S, 2S3K, 3K2S, 3S2K
II
III
IV
V

余ハ此分類法ニ從ヒア氏血像ヲ檢セリ即表示スルガ如ク沈降速度大ナルモノハ左方轉位ヲ示スコト多ク大體ニ於テ兩者共病勢及豫後判定上ノ價値ハ等シキガ如キモ時ニ兩者必ズシモ一致セザルコトアリ。唯沈降速度測定ハ操作簡單ナルヲ以テ實地上用フルニハ沈降速度測定ノ方便ナラント思考ス。要之肺結核ノ病勢及豫後ト赤血球沈降速度竝ニ白血球像トノ關係ハ大體ニ於テ相一致スルコトヲ認ム。清水氏ハ蟲樣起突炎ノ場合ニ於テハ其赤血球沈降速度ハ之ヲ總括的ニ論ズレバ白血球ノ數量的變化ト竝行スルモノト見做シ得ベシト云ヘリ。

第二十七表 ア氏血清ト赤血球沈降速度トノ關係

例性	病名	沈降速度	中性多型	I型	II型	III型	IV型	V型	淋巴球	大單核	嗜好	肥胖	白血球數
1 ♀	右肋膜炎	一・七	五八・五六	三九・四五	四二・八五	一四・九六	二七・二	〇	二五・四九	一三・一四	二・三九	〇・三九	七〇〇
2 ♂	兩上葉	一・八	六三・七五	五・九三	二一・七三	三五・六四	二六・七三	九・九	二八・七五	六・八八	一・二五	〇	九〇〇
3 ♂	左上葉	一・五	六八・二三	一一・一二	五〇・五〇	三〇・三〇	六・六七	一一・一	二三・七七	五・五九	一・三九	〇	九〇〇
4 ♂	兩肋膜炎	〇・二	五八・八八	一三・九八	三六・〇七	二七・九一	一六・四五	二・五二	三〇・九六	八・三七	四・一	〇・三七	九二〇
5 ♂	右上葉	二・五	五六・九四	四九・二六	三六・〇三	一一・五〇	二・二〇	〇	三一・六三	四・一八	三・三五	〇	一五〇〇
6 ♂	兩上葉左	〇・九	六六・二九	二五・二一	四二・〇一	二二・九五	四・二〇	〇・四二	二五・〇七	四・一八	四・四五	〇	一三九〇
7 ♂	滲肋	二・五	八一・三〇	六八・九六	二七・〇一	三・四四	〇・五七	〇	一四・四九	三・七三	〇・四六	〇	一三九〇
8 ♂	右肺尖浸	〇・二	六二・七七	二二・八五	四五・〇	二七・八五	三・五七	〇・七一	三二・七三	二・六九	一・七九	〇	七九〇
9 ♀	喘息	〇・二	四八・七三	六・〇八	三三・〇四	四二・六〇	一五・六五	二・六〇	三四・八九	二・五五	一二・七六	〇・八五	九〇〇
10 ♂	右肺尖浸	〇・一	四三・〇六	二〇・八四	四〇・六七	二八・八一	一〇・一七	〇	三七・九五	九・四八	九・四八	〇	六三〇
11 ♂	右上葉	二・三	七五・三三	三一・四六	五二・二一	一三・二七	三・〇九	〇	一六・〇	七・三三	〇・六六	〇・六六	九二〇

第五節 赤血球沈降速度ト「コロイドラビリテート」トノ關係

結核 癌、微毒其他蛋白分解ノ著シキ疾患ニ於テハ其中毒作用現ハル、ヤ血液膠質移動性ノ變化、「フイブリノゲン」ノ增量ヲ來シ血清蛋白ノ均衡ヲ失シ「グロブリン」ノ量ハ「アルブミン」ノ價ヲ超エテ増加ス、健康血清中ニ於ケルコノ兩者ノ含有比率ハ略々一定セルモノニシテ「アルブミン」對「グロブリン」ノ比ハ六五乃至八〇對二〇乃至三五ナリ、然ルニ中毒症狀及ビ組織崩壞ノ著明ナルニ準ジテ「グロブリン」ノ增加率モ亦加ハル、カ、ル機轉ニ基キテ一九一八年 Alter ハ結核ノ病勢及豫後ヲ推定センニハ血清「グロブリン」ノ定量ヲ行フベシトナセリ。一九二二年 Daranyi 氏ハ結核患者、妊婦其他細菌性及非細菌性疾患合計四五〇例ニツキテ熱ト「アルコホル」トヲ應用シ其血清ノ「コロイドラビリテート」ヲ檢査シ結核患者ニ於テハ次ノ成績ニ到達セリ即「D氏反應ノ價値アルハ働性結核ノ場合ニシテ確實ニ診斷サレタル働性結核ハ悉ク陽性ヲ示シ陰性ナルモノ一例モ無カリキ而テ本反應ハ毒素形成組織破壞、病竈ノ擴張ト並行シ疾病治癒ニ赴クト共ニ該反應消失スルヲ以テ治療ノ對照トナスコトヲ得ベシ」ト最近 Krenke ハ微毒患者血清ニツキ本反應ヲ試ミ微毒ニ於テハ血清「グロブリン」ノ「コロイドラビリテート」ハ全身感染ノ度ヲ示シ又ハ體內ニ於ケル毒素形成ノ大サヲ示スモ

ノナリ、故ニ本反應ハ他ノ特異性微毒反應ト對照シ病機ノ活動性ヲ知り得ト述ベタリ。余モ亦内科的結核性疾患ニ於テD氏反應ヲ試ミ同時ニ赤血球沈降速度ヲ檢シ兩者ノ關係ヲ比較セリ。

D、R試驗法ハ被檢血清〇・二ccニ稀薄「アルコホル」一・一珵ヲ混和シ六〇度ニ二十分間加熱シ後室溫ニ放置シ一定時間後 Ausklingungヲ呈シタルモノヲ陽性トナス、而テ放置シテヨリ反應ヲ認メ得ル迄ノ時間ニヨリコレヲ卅(三十分乃至一時間後ニ陽性反應ヲ認メ得ルモノ)卅(二時間後)卅(三時間後)卅(二十四時間後)ノ度ニ分チ二十四時間後モ尙「ホモゲン」ノ状態ニ止マル時ハ陰性(一)トナス。余ハ反應ヲ檢スルニ先ヅ加温後直チニ第一回ヲ檢シテ三十分、一時間、二時間、三時間、十二時間、二十四時間毎ニ各檢シ加温後直ニ陽性ヲ呈シタルモノヲ卅トナシ三十分乃至一時間後ヲ卅、二時間後ヲ卅、三時間後ヲトナシ、二十四時間後ヲトナシ二十四時間後ヲホ陰性ナルヲ(一)トナセリ。

稀薄「アルコホル」ノ製法ハ九六%「アルコホル」一〇容ニ二%食鹽水四〇容ヲ混和ス、コノ食鹽水ハ豫メ十%ノモノヲ作り置き用ニ鹽ミ蒸餾水ヲ追加シテ二%トナス、被檢血清ハ採血後二十四時間以内ニ使用シ血清ハ全ク血球ヲ混ゼザルモノトス。又溶血ヲ含ミ著ク赤色ヲ呈セル血清ヲ用フル時ハ加熱後直ニ黒褐色ヲ呈シ且顆粒ヲ生ジ眞ノ成績ヲ誤ラシムルヲ以テ注意ス、余ハ口徑約一釐ノ試験管ヲ用ヒ「アルコホル」混和後木栓シテ「アルコホル」ノ發散ヲ防ギタリ、次ニ余ハ同一血液ニ於テ赤血球沈降速度ヲ檢セリ、コレ赤血球沈降速度ハ後章述ブルガ如ク血漿中ノ「フィブリノーゲン」ニ關係アル他ニ、血清「グロブリン」モ亦大ナル關係アルヲ知レルヲ以テ此處ニ兩者ノ成績ノ比較ヲ試ミタリ。

表ニ示スガ如ク健康者竝ニ疾病治癒セルモノ及ビ組織崩壞或ハ毒素形成ナキ疾病ニシテ赤血球沈降速度小ナルモノニアリテハD、R陰性ヲ示スガ、反應ノ現ハル、時間頗ル長ク活動性ノ肺結核及肋膜炎ニ於テハD、Rノ現ハル、コト速カニシテ赤血球沈降速度モ亦大ナリ。然レ共赤血球沈降現象ハ血漿中ノ「フィブリノーゲン」血清「グロブリン」ニ關係アル他血球容量モ多少影響スルヲ以テ赤血球沈降速度ト血清「グロブリン」反應タルD、Rトハ必ズシモ數學的ニ竝行セザルコトアリ。同理ニヨリ女子ニ於ケルD、Rハ同一程度ノ赤血球沈降速度ヲ有スル男子ノD、Rニ比シ反應ノ現ハル、時間稍々遲シ。

第二十八表 赤血球沈降速度ト「コロイドラビリテート」

姓名	病名	熱	沈降速度	kl.	姓名	病名	熱	沈降速度	Kl.
兩上葉	兩上葉	三七・二	二・四	+	兩肋膜炎		—	一・八	+
右	右	三七・八	二・四	+	右		—	一・三	+
上	上			+	上				+
葉	葉			+	葉				+
兩上葉		三七	一・四	+	右		—	一・三	+
				+	上				+
				+	葉				+
				+					+

原 著 長島II内科的結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度竝ニ其本態ノ研究

[Bar chart]										
♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♂
右滲肋膜炎	右滲肋膜炎	右滲肋膜炎	兩上半	兩上半	肋膜炎	肋膜炎	右肋膜炎	右肋膜炎	肺門部浸	兩上半浸「カリエス」
三七・五	三七・五	三七・五	一	三八	三七	三七	三七	一	三七・三	三七・二
二・五	三・五	二・四	二・六	二・六	二・四	一・九	一・二	二・二	二・〇	二・四
+4	+4	+4	+4	+4	+4	+3	+3	+2	+2	+2
[Bar chart]										
♂	♂	♂	♂	♂	♀	♀	♀	♂	♂	
右滲肋膜炎	腦出血	右肺尖浸	肺門部浸	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸	右肺尖浸	健	
一・五	一・九	三・七	三・七	三七	三七	三七	三七	三七・四	健	
二・二	一・三	二・二	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・一	
+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	

第五章 赤血球沈降速度ト微毒反應トノ關係

微毒患者ニ於ケル赤血球沈降速度ハ Nathan, u. Herold 等ノ研究ニヨレバ第二期微毒患者ニ於テハ赤血球沈降速度ノ促進セルヲ認メタリ。余ハ肺結核及肋膜炎患者ニシテ既往ニ於テ微毒ヲ患ヒシモノ又ハ夫ニ微毒ノ既往症アリシ婦人ニ於テ赤血球沈降速度ト同時ニワツセルマン氏反應及マイニツケ氏反應ヲ試ミタリシニ表ニ示スガ如ク微毒反應陽性ナルモノニ於テハ血球沈降速度モ亦著シク促進セルヲ認メタリ、而シテ該患者ニ於ケル微毒以外ノ疾病ノ程度ハ其血液ノ示セル赤血球沈降速度ニ比シ甚ダ輕症ナルモノナリキ、唯二例ニ於テ微毒反應陽性ナリシモノ、赤血球沈降速度小ナルアリシモノノ患者ハ當時驅療法ヲ行ヒテ日尙淺キモノナリキ。故ニ余ハ病的變化ヲ參酌シテ赤血球沈降速度ガ豫想外ニ促進セル時ハ微毒反應ヲ其血清ニ於テ試ミタリシニ陽性ナリシコト屢々アリキ。

第二十九表 赤血球沈降速度トワ氏反應

[Bar chart]			姓名	性	病名	微毒ノ既往症	沈降速度	ワ氏反應
♂	♂	♀			右上半浸	+	二・二	-
♂	♂	♀			兩肺尖浸	+	〇・七	+
[Bar chart]			姓名	性	病名	微毒ノ既往症	沈降速度	ワ氏反應
♂	♂	♀			右肺尖浸	+	二・六	+
♂	♂	♀			兩上半浸	+	二・四	+
♂	♂	♀			右上半浸	?	二・五	-

	♂	♂	♂	♀	♂	♀	♂	♀
糖尿病	心瓣病	右上葉	兩肋膜炎	右上葉	肋膜下浸			
+	+	+	+	+	+	+	+	+
二・五	二・七	二・二	二・九	二・八	一・八	二・三	二・三	
+	+	+	+	+	+	+	+	+
	♂	♂	♂	♀	♂	♀	♂	
兩上葉	兩上葉	「チフス」後	腦出血	健	肺尖浸	右上葉	氣管枝炎	
-	-	+	+	+	+	?	+	
二・五	一・八	〇・六	〇・三	〇・二	〇・三	一・四	二・三	
-	-	-	-	-	+	+	+	

第六章 妊娠ト赤血球沈降速度トノ關係

妊婦血液ニ於テ其赤血球ガ非妊婦ニ比シ速カニ沈降スルコトニ注意セルハ一九一六年 Fairhaus ヲ以テ初メトシ氏ハコノ現象ヲ妊娠徵候中ニ算入シ以テ妊娠診斷ニ應用セント試ミタリ。其後 Tinzemier 津田、堤其他諸學者ニヨリ追試確認

第三十表 妊娠ト赤血球沈降速度

姓 名	合併症	妊娠月數	沈降速度
	陳久肋膜炎	V	一・四
	陳久肋膜炎	III	一・一
	右肺尖浸	IV	一・一
	右肺尖浸	II	一・六
	右陳久肋膜炎	III	〇・六

娠殊ニ惡阻ニヨリテ既ニ治愈セル疾病モ再發スルコトアルニ於テヲヤ。

第七章 種々ナル疾患ニ於ケル赤血球沈降速度

結核以外ノ種々ナル疾患ニ於ケル赤血球沈降速度ヲ測定セルニ左表ノ如シ、即チ喘息、腦出血、早發性癡呆、神經衰弱症、鬱血症狀ヲ呈セザル心臟瓣膜病等總テ組織崩壞、毒素形成ヲ伴ハザル疾病及機能的疾病ニアリテハ赤血球沈降速度

ニ大ナル影響ナク、反之スベテ炎症的の疾病、癌、鬱血症狀ヲ呈セル心臟瓣膜病等ニアリテハ沈降速度著ク促進セラレタリ。

第三十一表 種々ナル疾患ニ於ケル赤血球沈降速度

姓名	性	年齢	病 名	熱	沈降速度	備 考
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	♂ ♂	二〇 四四 四四 四四	耳下腺炎 尿道炎 氣管枝炎 氣管枝炎	三八 三七 三七・二	二・七 二・五 一・九 二・五	
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	♀ ♀ ♀ ♀ ♀ ♀ ♀ ♀	一五 四〇 四〇 三二 三二 五〇 五九 六〇	氣管枝炎 腎盂炎 胃痛 胃痛 動脈硬化	— — — — —	一・五 二・五 一・七 二・五 二・五 一・三	「カヘキシ」
姓名	性	年齢	病 名	熱	沈降速度	備 考
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	♂ ♂ ♀ ♀ ♀ ♀ ♀ ♀	四九 二二 二二 四六 三〇 二六 二七 四二 六一	アホブレキス 僧瓣閉鎖不全 僧瓣閉鎖不全 喘息 喘息 同前 同前 同前	— — — — — 三七	〇・九 二・〇 〇・四 一・二 〇・二 一・〇 二・〇 〇・九 〇・二	鬱血症狀アリ 鬱血症狀浮腫 ナシ 同前 浮腫ヲ認ム

第八章 疾病ノ經過ト赤血球沈降速度

疾病ノ輕重及活動性ノ強弱ト赤血球沈降速度トハ相關聯セルヲ知レルヲ以テ更ニ同一患者ニ於テ其經過中數回ニ互リ赤血球沈降速度ヲ檢シ其疾病ノ經過トノ比較ヲ試ミタリ、即左表ノ如シ、本表中第一乃至第六症例ハイヅレモ良好ナル轉歸ヲ取レルモノニシテ即體溫次第ニ下降シ食欲増進、體重増加其他自他覺的の症狀漸次佳良トナルニ從ヒ赤血球沈降速度モ亦遲延ス。第七モ次第二遲延セリ。滲出性肋膜炎ニアリテハ滲出液消失シ一般症狀佳良トナルニ從ヒ赤血球沈降速度モ亦遲延ス。第七乃至第八症例ハ疾病ノ經過遅々トシテ症狀一進一退セルモノニシテ赤血球沈降速度モ亦多少ノ遲速ハ存セルモ大ナル變動ヲ示サズ。第九乃至第十二症例ハ不良ナル轉歸ヲ取レルモノニシテソノ經過中體溫次第ニ上昇シ體重減少、病竈漸次惡化シ三例ハ遂ニ死ノ轉歸ヲ取レルモノニシテ赤血球沈降速度ハ同ヲ重ヌルニ從ヒ増大セリ。第十二症例ハ胸痛ヲ主訴トシテ來リタルモノニシテ當時體溫三十七度以下ニテ他覺的ニハ右呼吸音僅カニ弱キノミナリシニ二十日後ニ於テハ體

第三十二表 疾病ノ經過ト赤血球沈降速度

姓名	摘要	檢査				
		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
(右ノ上葉兩肋膜炎)	沈降速度 二・五 熱 三七・一 體重 (kg) 三九・三 經過 肺炎水泡音	二・三 三六・九 四〇・九 「ラッセル」 ナシ	一・八 三六・七 四〇・三 良	退院		
(兩上葉淺)	沈降速度 一・七 熱 三七・〇 體重 五八・〇 經過	〇・八 三六・八 六三・六 良	〇・四 三六・八 六六・二 良	退院		
(滲出性肋膜炎)	沈降速度 二・五 熱 三七・〇 體重 滲出液アリ 經過	二・四 三七・〇 液アリ	二・四 三六・五 ナシ	一・一 三六・五 五三・三 ナシ	〇・七 三六・四 五四・五 ナシ	
(肋膜炎)	沈降速度 一・三 熱 三七・二 體重 四三・二 經過	〇・六 三六・八 四五・〇 良	〇・九 二六・五 四五・二 感冒	退院		
(右肋膜炎)	沈降速度 二・〇 熱 一 體重 三九・三 經過	一・七 四二・七 良	一・六 四五・一 良	〇・八 四七・〇 良	〇・五 四九・三 良	
(兩上葉)	沈降速度 二・四 熱 三七・八 體重 四九・五 經過	二・二 三七・三 五七・〇 良	二・二 三七・〇 五七・五 良	一・九 三七・〇 五八・五 良	一・六 一 六〇・三 良	

原著

長島II内科の結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其本態ノ研究

温三十八度ニ上昇シ右肋膜腔ニ滲出液ヲ證明シ赤血球沈降速度ハ最初〇・三ナリシモノ次回ニハ一・六糎ニ増大セリ、第十三例ニアリテハ第一回檢査ノ當時ハ體温常温ニシテ右肩緊ヲ主訴トシ他覺的ニハ右肺門部ニ僅カノ抵抗ヲ感ジタルノミニシテ沈降速度モ一・〇糎ナリシニ第二回ニハ頸部淋巴腺ノ腫脹ヲ起シ右肺門部ニ水泡音ヲ聽取シ體温三十八度ニ上昇シ赤血球沈降速度ハ一・七糎ニ増大ス。七ヶ月後ニ於テ第三回檢査ヲ行ヘル時ハ頸部淋巴腺腫消失シ胸部所見モ亦良好トナリ赤血球沈降速度ハ〇・五糎ニ減少セリ。即本章ヲ總覽スルニ疾病治愈ニ向ヒ活動性次第ニ減弱スルニ從ヒ赤血球沈降速度ハ次第ニ小トナリ、反之、疾病進行スルモノニアリテハ赤血球沈降速度モ亦促進セラル、ヲ知ル。

第九章 本編ノ總括

以上ニ記述セル赤血球沈降速度ノ臨牀的觀

(肺門部浸)	(肋膜炎)	(兩上葉)	(腹膜炎)	(肋腹膜炎)	(兩上葉)	(兩上葉)
經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度	經過 體重 熱 沈降速度
所見少シ 四三・三	乾性 五五・五	三三・七 三三・四 三八・七	三六・〇 三八・〇 二六・六	三二・二 三七・五 二七・七	五三・〇 三七・〇 一七・七	五〇・〇 三七・二 二・四
「ラッセル」テリ 三九・八 三八・〇 一七・七	滲出性トナル 五二・六 三八・〇 一・六	惡 三三・六 三三・五 二八・八	惡 三四・〇 三九・〇 三三・〇	惡 三一・〇 三九・〇 二九・九	脚氣 四八・七 一・四 一・四	良 五三・五 三七・〇 二・三
治癒 四一・三	〇・五	惡 三四・〇 三三・〇 三三・〇	死亡	惡 三〇・六 三九・〇 三三・二	不變 四八・八 一・〇 一・〇	良 五四・〇 三七・〇 二・二
		死亡		死亡	惡 四八・四 一・五 一・五	惡 五二・八 三七・〇 二・二
						退院

察ヲ總括スルニ、
 一、健康者ニ於ケル赤血球沈降速度ハ女子ハ男子ヨリ大ニシテ約二倍ナリ。
 二、病態ニアリテモ一般ニ女子ハ男子ニ比シ其ノ病的變化ヲ參酌スルモ沈降速度大ナリ。
 三、成人ニ於ケル赤血球沈降速度ハ健康タルト病態タルトヲ問ハズ年齢的差異ヲ認メズ。
 四、肺結核患者ノ赤血球沈降速度ハ健康者ノ其レヨリモ大ニシテ大體ニ於テ疾病ノ活動性ノ強弱ニ竝行シ病竈ノ廣狹發熱ニ必ズシモ竝行セズ、
 五、肋膜炎、腹膜炎患者ニアリテハ滲出性ノモノハ然ラザルモノヨリモ赤血球沈降速度大ニシテ其他ノ關係ハ肺結核ニ於ケルト同様ナリ。
 六、淋巴腺結核ニ於ケル赤血球沈降速度ハ腺腫ノ増大縮小ト竝行ス。
 七、組織破壊毒素形成ヲ伴ハザル疾患及機

能的疾患ニアリテハ赤血球沈降速度ハ健康者ト大差ナシ。

八、肺結核患者ニ於ケル赤血球沈降速度ハ血壓ニ關係セザルコト多シ。

九、ビルケー氏反應ト同時ニ赤血球沈降速度ヲ測定スル時ハ成人ニ於ケルビルケー氏反應ヲシテ意義アラシムルコトヲ得。

十、肺結核、肋膜炎患者ニ於ケル赤血球沈降速度ハ血色素量、赤血球數ト大體竝行スルモ必ズシモ然ラザルコトモアリ。

十一、結核性疾患ニ於ケル白血球數及白血球混合比例ノ變化竝ニアーチツト氏血像ト赤血球沈降速度トハ大體ニ於テ竝行シテ變動ス。

十二、結核性疾患ニ於ケル赤血球沈降速度ト其血清「コロイドラビリテート」トハ大體ニ於テ竝行ス。

十三、血清黴毒反應陽性ナルモノハ赤血球沈降速度大ナルモノ多シ。

十四、月數進マザル妊婦ニアリテハ赤血球沈降速度大ナラザルコトアリ。

十五、疾病ノ經過中ニ反復赤血球沈降速度ヲ檢スル時ハ經過ノ良否ヲト知シ從テ豫後ニ關シ補助的判定法トナスコトヲ得。

文獻ハ第二編ノ終リニ掲グ

本稿ハ檜林博士竝ニ清野博士ノ御校閲ヲ仰ギタリ謹ンデ謝意ヲ表ス。